

5年後のビジョン

佐賀市市民活動プラザに市民活動に関わる多様な人々が集まり、多彩な活動を通して”幸せ（やってよかったという思い）感”があふれる。市民活動団体が活動をすすめるうえで必要な人材育成が進み、自団体だけでなく周りの団体や企業、行政等とも協働・連携できるようにネットワークを構築し、地域活動課題の解決が進む環境になっている。



今年度終了時のビジョン

市民への周知が進みプラザを知り利用することで、多様な人との出会いの場となり、交流会で知り合った団体、企業、人同士が協力し新たな事業へすすむきっかけを掴んでいる。今年度は、相談や活動でプラザを利用されている市民活動団体から人材育成をすすめ、人材育成に関する講座や研修を受講し、その一人ひとりが団体の中で必要な役目を担えるようになっている。また、活動を進めるうえでの問題点などを洗い出している。
指定管理者として来年度、更に前進した業務の推進ができるように今年中に業務の流れを掴む。



基本方針	上半期の振り返り
<p>①市民活動の実践者等に対し、活動等の場として施設提供を行う</p>	<p>誰もが参加でき参加した団体の活動内容を知るきっかけとなる場の提供として「いどばたかいぎ」を毎月第三金曜日に開催している。知り合うきっかけとなればいいと計画したが上半期の実績（開催数：6回、のべ参加者数：49名）として、お互いを知ることで協力し合えることを掴み実際に参加者同士が集まり任意団体を立ち上げられた。</p> <p>プラザが市民活動の拠点であり活動に有益な情報が集まり、人とつながれる場、市民活動に出会える場として認識してもらえるように、広報誌「HONOHONO」を毎月発行している。置いてもらえる場所も少しずつ（当初：56ヶ所、9月末：64ヶ所）ではあるが増やしている。</p> <p>また、市民活動団体をはじめ多様な利用者にとって使いやすい環境を提供するために、職員（窓口パート含む）の接遇研修をはじめとする市民活動団体の対応に困らない研修を中心に毎月実施している。そのため、利用者の困りごとなど窓口で解決できるようになってきた。下半期も充実した内部研修を準備し、一人ひとりがプラザの代表との意識で対応できるようにすすめる。</p>
<p>②市民活動団体・行政・企業等の協働・連携の場の拠点として機能する</p>	<p>多様な連携を考えるならば市民活動団体の活動内容や活動する上での困りごとなど、企業が社会貢献活動としてどのような活動をしているかなどを知ることから始めようとヒアリングを計画した。市民活動団体は本業を持っている方の集合体の場合が多くヒアリングの日程が定まらず計画の半分しかヒアリングができなかった。しかし、このヒアリングをきっかけに広報誌に団体紹介を始めたことで、団体の周りへも広報誌が行きわたり、団体の活動が広く知られたという効果もあった。社会貢献している企業をヒアリングし、その活動を知ってもらえために交流会を開催した。この会は企業の活動を知ってもらうことはできたが、小さなきっかけが協働・連携につながるまでには伝えられなかった。次年度に開催する場合は、参加者に何を持って帰ってもらうかの目的をはっきりさせ、企業だけでなく行政や団体同士の連携などのきっかけを掴んでもらう。</p>
<p>③市民活動の実践者等に対する様々な支援を行い、事業が円滑に行われるように協力する</p>	<p>相談支援員1名を配置し、市民活動団体の活動する上での困りごとを解決に導き支援を行う。相談支援員だけでなく、職員の誰もが相談を聞き取り解決へ導けるようにしている。相談は、団体支援だけにとどまらず、今年度は行政や企業からの相談も受け支援している。市民活動団体の相談内容も以前と異なり、助成金の相談を取り上げても、ただ運営にお金が必要だという相談から、こんな活動でこの費用が足りないから助成金が補助金はないかとの相談に変化している。これまでの相談支援内容に基づき人材育成の計画を立てているため、その時のニーズにより少し計画と異なるスケジュールとなった。受講者に少しでも深く学び理解してもらえるようにすすめている。そのような情報発信を含め、特に助成金情報などは毎週月曜日にメルマガ配信で提供している。</p>